

## 第 18 回「京都御苑ずきの御近所さん」

勅願所 清荒神護浄院

住職 松景 崇誓 様



### ■清荒神護浄院様と御所との関係について、教えてくださいませんか？

御所との関係ですが、毎年1月、5月、9月に、皇室の安泰と、天皇皇后両陛下、皇太子殿下ご一家のご無事をお祈りし、お札とお守りをお納めしています。それに対し宮内庁から「お供物料」をお届けいただいております。

数年前に皇太子殿下が伊吹山に来られた際、伊吹山にお寺を復興されたご住職から、「皇太子殿下にご祈願したお札を渡したいが、どうすればいいのか？」と相談を受けました。「うちはお札とお守りを奉書に包んで、水引をかけます。水引は宮内庁がお使いになる白と緑を使用しています。緑は実際は紅なんですけど、赤を濃くすると濃い緑になるんです。それが宮内庁専用だそうです。その水引を結んで、奉書に『奉』と書いて献上します」とお答えしました。後日、念の為宮内庁京都事務所に行きお尋ねしましたら、殿下にお渡しすることは出来ないとのことでした。「うちはお札を献上させていただいていますが、どうして伊吹山の場合できないのですか」とお尋ねすると、「松景さんのところは特殊なんですよ。このようなお寺は全国で5本の指を折れないくらいですよ」といわれました。その時護浄院って凄いお寺だと再認識した次第です。非常に名誉なことで有り難いことです。考えてみますと毎年2回、京都の有名なお大寺の方々が宮内庁京都事務所に行き、天皇陛下からの「ご下賜金」を戴かれます。私も某寺院の代理として行き、下賜金を戴いて参りますが、護浄院の場合「ご下賜」ではなく、「供物料」として、しかもお届けいただける。これは恐れ多く有り難い事だと思います。

### ■「清荒神」について教えてくださいませんか。

清荒神護浄院は奈良時代、<sup>こうにん</sup>光仁天皇<sup>1</sup>様の皇子である開成皇子様が早くに出家され、摂津

<sup>1</sup> 第 49 代天皇として 770～781 年在位。京都に都を移した桓武天皇の父親

国勝尾山<sup>2</sup>の「きよし(す)」というところで修行をされていました。この開成皇子様というのは勝尾寺や大阪の神峯山寺などのお寺を開かれた方なのですが、あるとき修行中に荒神さんが鬼の姿となって表れ、この感得された荒神さんを清荒神と名付け、守護神としてお祀りされたのが始まりです。その後清荒神を祀った寺は「常施無畏寺」「常施寺」と呼ばれていました。そして平城京から天皇の使いである勅使がお参りに行かれるようになり、その後都が平安京に移ってからも勅使による参詣が続いておりました。南北朝の動乱が収まった時代、後小松天皇<sup>3</sup>様より「勝尾山はあまりに遠く勅使の労少なからず」との勅があり、京都の堀川高辻あたりに移されました。現在は観音寺というお寺がありますが、住所は荒神町となっています。私は縁あって毎年この観音寺の近辺へ地蔵盆のお参りに行っていますが、近辺の町名は喜吉町といわれています。文字は違いますが、清荒神の「清」からきていると思います。その後安土桃山時代になり、後陽成天皇<sup>4</sup>様より豊臣秀吉に対し、「御所の辰巳(南東)の方向は神が寄宿する所なので、御所を護るため清荒神を御所の南東へ移すように」との勅があり現在地に移転してまいりました。この時から勅願所として毎日欠かすことなく、天皇陛下の玉体安穩と皇室の安寧、また皇室の皆様のご健勝をお祈りしております。後水尾天皇<sup>5</sup>様・靈元天皇<sup>6</sup>様の代になり、江戸幕府との関係がうまくいかなかった事もあり、清荒神に対し、不断修行の勅を賜り、続いて東山天皇様からも長期にわたり護摩秘法供を行う『長日護摩供』や、『三千座護摩供』を命ぜられています。このときご利益があり念願が叶ったということで、東山天皇様から『御所の浄域を護る』という意味で『護浄院』という名前をいただき現在に至っております。以来天皇皇后両陛下や皇室の皆様のご健勝・皇室安泰を祈願し、祈禱札を献上させて頂いております。以前は御所・御苑にはいくつもの宮家があり、それぞれに祈禱札をお届けしていたようですが、宮家により御札の作り方が異なっていたようで、各宮家の御札の作り方が資料として残っています。以前は薬も作ってお届けしたみたいですが。今は天皇皇后両陛下・皇太子殿下ご一家の御祈願札を献上しています。皇后陛下が皇太子妃殿下であられたころ、直接献上札のお礼のお電話をいただいたことを聞いております。また皇太子妃殿下より「浩宮殿下・礼宮殿下・紀宮殿下の近況と祈禱札献上のお礼をお伝えするように」とのお伝えがあったと、当時の東宮大夫様からの手紙が残っています。まことに恐れ多く、有り難いことと思っております。

---

<sup>2</sup> 大阪府箕面市所在

<sup>3</sup> 第100代天皇として1382～1412年在位。

<sup>4</sup> 第107代天皇として1586～1611年在位。

<sup>5</sup> 第108代天皇として1611～1629年在位。

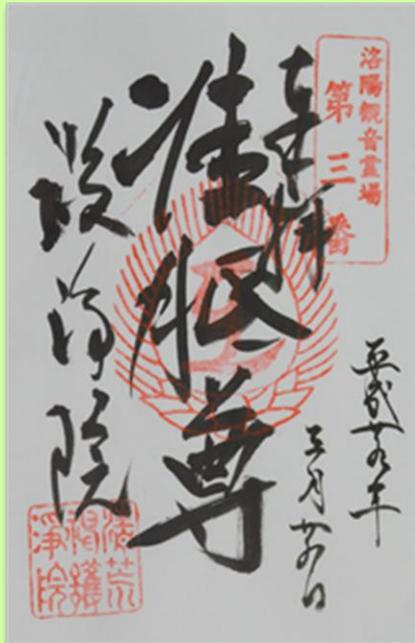
<sup>6</sup> 第112代天皇として1663～1687年在位。

## ■お祀りされている「准胝観音様」について教えてください。

准胝観音様じゅんていかんのんというのは佛母『仏の母』と書き、たいへん優しい女性の味方の観音様です。除災延命だけではなく、子授けや安産の功德など女性の悩みを聞きとどけていただけます。

それに関連して、京都市内を限定として観音様の霊場「洛陽三十三観音札所霊場」があります。これは平安時代後白河天皇様が定められたものですが、江戸時代に紆余曲折があり一度断えていました。その札所霊場を平成になり、ちょうど10年ほど前に真言宗や浄土宗の若いお坊さんを中心に、宗派を超えて復活させようという動きがありました。お坊さんたちは単車に乗り、各寺院を回り説得をして歩かれたんです。清水寺さん、東寺さん、三十三間堂さんなど錚々たるお寺へ伺い、頭を下げて、遂に復興することが出来たんです。それはたいへんなご苦労だったと思います。その時「洛陽三十三観音霊場」には護浄院は入っていませんでした。うちの近所に三番札所の寺院が神社と共にあったようですが、明治の神仏分離・廃仏毀釈で絶えて無くなりましたので、新たなお寺を探しているとの相談を受けました。たまたま護浄院に准胝観音様がお祀りしてありましたので、代わりにということで札所霊場会に入れていただきました。それ以来皆様とは親しくお付き合いさせていただいております。2ヶ月に1度、清水寺様で役員会をさせていただいておりますが、お陰様で宗派を超えていろいろな関係の方と知り合い、仲良くさせていただいております。仏教の基本の一つは「縁」ですが、本当に善き縁を頂いています。昨年霊場会再興10周年記念事業を行いました。準備委員会を立ち上げるにあたり、「松景さん委員長を」といわれましたが、「私のお寺は新参なのでそういう訳にはいかない」とお断りをしましたが、是非とのことでしたので、会長の清水寺様、各札所の皆様の了解を得て委員長を勤めさせていただきました。同年の方もおられますが、宗派を超えて若い人たちと知り合え、ほんとにいい勉強をさせていただきました。天台宗の若いお坊さん達にも「宗内だけではなく、他宗の方達とも、積極的にもとおつきあえば面白いよ」という話はしているのですが。

「洛陽三十三観音札所霊場」というのは京都市内のみで回れますので、その気になれば2日で回れます。お寺は大規模なお寺もあれば私の寺みたいな小規模なお寺もあります。どちらかといえば「洛陽三十三観音」は比較的住職が直接ご朱印を書いたり、お話をしたりする機会が多い札所の様に思います。普通御朱印はそのお寺の職員さんがお書きになることが多いと思いますが、住職に御朱印を書いていただけるということは、それなりに尊い事だと思います。小僧のころですが、お茶室に掛ける掛軸はある程度の決まりがあるが、僧侶の書いた軸は決まりにこだわる必要はないということを聞いたことがあります。そういう意味では僧侶の書いたものは有り難いのだと思います。私の師匠は「字は下手くそでもいい、た



松影住職様による御朱印

だ一生懸命一画一画丁寧に書けばそれでいい。それが尊いということだ」と教わりました。余談ですが某寺院で、お手伝いに来たお坊さんに朱印を書かせましたところ、後日字が下手だという苦情の電話をいただきました。その時は「本人の字は上手ではないのですが、一画一画丁寧に書いているはずですが、他の寺のように職員が上手な字を書くのもいいですが、僧侶が誠実な文字を書いた朱印も尊いですよ」という話をして、ご理解いただいた事があります。なれない僧侶に朱印をさせた私が悪いのですが、そういうこともありました。ご住職や奥さん、お寺のご家族の方とふれあう機会が多いアットホームな感じなのが洛陽三十三札所です。是非巡礼されたらいいと思います。

うちの本尊さんは清荒神さんですが、荒神さんは「火の用心」「災難除け」の神様です。また荒神さんは汚れを嫌い、きれいで清浄な、きよらかなところを好まれます。きれいなところといえば一番は竈<sup>かまど</sup>ですので、竈のある台所においてになります。

別な意味で荒神さんは物質な汚れもそうですが、人間の汚れも嫌われます。人間の汚れは身・口・意が原因で汚れると言われるので、身を慎み・言葉を慎み・悪い考えを起こさないようにしないと祟りがあるとされます。荒神さんは文字の如く荒ぶる神様なので、大きなご利益はいただけますが、間違うと祟りやすく恐ろしいのが荒神さんです。護浄院の荒神さんは天皇様の勅命で現在地に迎えられ、天皇様・皇族の皆様の平穩を祈り、天皇様の願いである世の中が平穩で、人々が幸せであるように祈願することが一番でした。いわゆる天皇様専門でした。ですので明治維新まで宮内庁から維持費をいただいて寺院を護持しておりました。以前から檀家になりたいという方がおられました。天皇様の祈願するお寺なのでお墓を造ることは許されず、護浄院自体も他の寺の檀家となっているのでと、ご理解いただいております。

## ■京都御苑で好きな場所、好きな時期などありますか？

好きな場所は禁裏、大宮・仙洞御所もそうですが塀に一直線の筋が5本線入っていて、これは「定規筋」って言うのだそうですが、この幾何学の直線と、反対側には幾何学模様とは対

照的な自然の形をした松があります。その非対称のバランスが素晴らしいないつも思っ  
て見えています。御苑の松は自然の形にしてあると聞いていますが、3月の半ばぐらいに犬の  
散歩をしていますと、東山に月が出ます。苑内から石薬師門越しにその月をみますと、もの  
すごく綺麗で感動いたします。北には松林があり、その場所は藤原道長邸跡で、「この世を  
ば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも なしと思へば」と歌った気持ちがわかる  
ような気がしますよ。

あとは夕暮れの黄昏時が一番いいと思います。昨日もそうでしたが、西を見ると禁裏の5  
本線の堀越しに松が見え、松越しに真っ赤な夕日が見えて綺麗です。黄昏時の御苑もお勧め  
だと思います。南に下がって行くと松越しに月も一緒に付いてきてくれます。夕方は空気が  
冷たくなってくるので、敬遠して散歩する人は限られてきますが、私は是非夕方の黄昏時の  
散歩をお勧めします。年に一度くらい大宮御所の北の苑路にテントを張って、月を愛でるひ  
とときを設けていただいて、僅かな時間ですが、食事をしてお酒も少しいただいても良いと  
いった機会をおつくりいただいてはどうでしょうか。テントを張り、少し照明を準備いただ  
ければそれでいいと思いますが。

また春は御苑の中にいろいろなお花が咲きます。迎賓館の西は一面黄色い色の花が咲い  
て、まるでお花畑化します。いわゆる雑草の一種かと思いますが、雑草でもよく見ると可憐  
な花が咲いています。一日も同じ景色はありません。季節は秋もいいですが春が尚いいです  
ね。諸行無常を感じます。

## ■思い出の中で、京都御苑にまつわるものはありますか？

下の娘が小学校低学年のころ、夏休みの宿題なににしようかと悩んでいたのが、御苑には  
どんな木があるか調べたらとアドバイスしたら、そうするというので、親子で御苑の樹木  
の葉っぱを写真に撮って歩いたことを思い出します。あれは苦労しました。言い出しっぺは  
私ですので、『夏休みの相談コーナー』に行って「この葉はなんていう木ですか？」と質問し  
ましたが、「写真だけではね」といわれ、苦労の割には今一つでした。それと家族で御苑北西  
にある公園によく遊びに行きました。子供達も御苑に対しては思いが深いと思います。我が  
家の庭みたいなもんですから。自転車の前と後ろに子供を乗せてよく行ってましたね。あと  
犬の散歩、雨が降らない日はほぼ毎日です。基本朝は家内、夕方は私が担当します。あと現  
在鴨沂高校が新築・改築工事をしていますが、新しくなったグラウンドの堀は凄くいいデザ  
インですね。今までは圧迫感のある汚く高い、ただの堀でしたがうちの寺の堀に合わせたよ  
うな高くなく、上に瓦を乗せた和風の堀です。これも隣に御所や御苑があるおかげでしょう

ね。良い景観・雰囲気になりました。有り難い限りです。

建礼門や清和院御門も綺麗ですばらしいです。これら御苑全体を維持しようとする、維持するだけで結構たいへんだと思います。以前御所や御苑の松は枯れていなくて凄いなという話をしてたんです。東山辺りは松枯れが凄くて、だけど以前御所や御苑の中の松は枯れないので、「これ何か特殊な薬を散布してはるのかな。さすが御苑やな」と。その影響でしょうか、おかげで私の寺の松は1本も枯れることなく有り難いと思っていたんですが。しかし近年御苑の松がポツポツと枯れてきて、心配しています。最近迎賓館の西の大きな松が倒れていましたね。見ると葉は青々としていましたが、かわいそうにこんな太い松なのに切られて処分されるのかなと思っていました。そのうち松は寝たまま枕を当てられて、ちゃんと大事に養生してもらって。凄いなさすが御苑。普通なら、かわいそうだけれども切られちゃいます。大事に剪定して形を整えて、枕をして、見ると松が病気で寝てはるなって感じです。あれはなかなかいい絵ですよ。よかったよかった。御苑の人たちは本当に樹木、草花が好きなんだなと思います。そしてやさしいですね。

### ■京都御苑の今後について、ご意見等ございましたら自由におっしゃってください。

昨年未あたりから仙洞・大宮御所の塀沿いの歩道の工事が始まりましたが、今までは黒のアスファルトでした。しかし御苑の中、仙洞御所の隣というところで、今度はどんな歩道になるかなと楽しみに工事の進み具合をみておりました。歩道の縁石も以前はセメントの縁石で風情が無いと思っておりました。その後完成した歩道はというと、以前と同じ黒のアスファルトで縁石もセメント性で、がっかりしました。ホームセンターに行きますと1500円くらいで葛石を売っているので、せめて縁石は石で舗装も迎賓館南の歩道のような土色の歩道にしていただきたかった。また迎賓館について、屋根は一応数奇屋風書院を意識して、起り屋根になっていますが、ついでに3つの門のうち1つは茅門にすれば海外からの賓客も日本の文化を実感でき、喜ばれたのではないのでしょうか。次に御苑には土御門邸や桂宮邸・近衛邸の跡が残っていますが、過去この建物がどんな建物であったかということが分かるように、建物の立体図であるパース図を各所に置いていただいて、地面の柱跡に礎石を置いてもらえれば大きさも想像してもらえないのでしょうか。我々は有り難いことに、いろいろな文化に触れさせていただいているので、ある程度想像は出来ますが、一般の方、特に海外の方は当時どんな建物があったのか全く理解出来ないと思います。ただの広い公園ぐらいにしか思っておられないのではないのでしょうか。御苑の北部分は公家町があり、そ

それはそれはたいへんな場所であったと思います。私は曼殊院門跡の執事長をさせていた  
いておりますが、以前あった建物を復元することについて、内部の資料は残っておりま  
すが、外観の形がわかりませんでした。そこで設計士に依頼しましたら隣接していた建物の垂  
木に僅かに切り込みがあり、渡り廊下で繋がっていたことが判明し、その渡り廊下の高さか  
ら復元する建物の高さが解り、洛中洛外図屏風の僅かな屋根の形から全体図が出来上がり  
ました。そして発掘調査をしたらその図面通りに柱跡が出てきて、さすがやなと思いま  
した。このように文化財を専門にしている設計士さんをお願いすれば公家町のパース図はそ  
うむずかしいことではないのではないかと思います。御所といえば日本政治の中心であり、  
日本文化の中心であったわけで、江戸時代の初め後水尾天皇様のころは宮廷文化が花開い  
た時期ですので、そういうものを大切に残し後世に伝えていく為には必要なことだと思  
います。現に藤原道長が和歌を詠んだ場所が現存している、歴史的に凄いことだと思うの  
ですが。

それから北に近衛邸跡の庭園が残っていますが、これも凄い庭だと思うんです。あの庭を  
プロに任せて本来の庭に戻せば素晴らしい庭になります。今はずいぶんと荒れておおざ  
っぱな庭になっていますが、もう少し手を入れて、「さすがこれが五摂家の庭園か」というよ  
うにしていれば、海外から来る人も何か心に打つものがあるのではないのでしょうか。

また桂宮邸跡は想像するだけでもわくわくします。やはり桂離宮の流れで、桂離宮を完成  
させた八条宮智忠親王様も関わっておられたことでしょうし。素晴らしい庭だと想像しま  
すので、できましたら公開をしていただきたいと思います。

我々はあまりに身近すぎて意識しませんが、他府県の方は御苑・御所は一目置かれる存在  
だと思います。ある僧侶の方とお話をしておりましたら、その方は御所は何カ所門があるの  
かという質問があり、その門はいつも閉まっているのかといわれまして、いつも開いてい  
て人は自由に入出入りしていることを伝えると、塀の中に入れることにびっくりされていま  
した。ただ御苑と御所・禁裏（今は京都御所）の説明がややこしいですけど。門も御苑の門な  
のか、仙洞・大宮御所の門なのか。いずれにしてもやはり御苑・御所は特別なんです。

来年4月に開校する地元の小学校の名前を募集したところ、御所の東にあるので「御所東  
小学校」というのが一番多く、結局この名前に決定いたしました。御所のブランド力なん  
です。このように御所と鴨川の間で暮らしている地元の人達は、御苑の近くに住んでい  
ることを誇りに思い日々生活しています。

2017年3月30日 インタビュー

聞き手：田村省二、山本昌世

○松景 崇誓さま プロフィール○

1953年、京都市生まれ。84年清荒神護浄院副住職。2006年、清荒神護浄院の住職となる。  
2007年、曼殊院門跡執事長、京都市民生委員・児童委員となる。2013年、天台宗宗会議員  
となる。2015年、京都市上京区保護司となる。